藤原宮跡出土の木簡

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

1988年度の調査では，藤原宮跡と藤原京跡の４箇所から総計481点（うち削屑221点）の木簡が出土した。各調査において出土した木簡の点数や主な釈文，あるいは出土遺構については既に『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(九)』（1989年５月刊）で報告したので，ここではそのうち第58－１次調査で出土した薬物関係の木簡について報告する。

第58－1次調査は，藤原宮の西面南門の確認を主たる目的として実施された。調査区の南端は1973年度に行われた第10次調査区と一部重複する。第10次調査においても西面内濠から薬物に関わると思われる木簡が出土した。今回出土した木簡も判読できるものの大半が薬物に関係をもつものと見られる。その特徴としては，１．木簡の過半は薬物に付けられた付札で，多種多様な薬物が見えるが，その中に「黒石英」・「石流黄」などの鉱物性薬物があり，また薬物の量目が「十斤」・「五斤」・「一斤」などまとまりのよい数字であるものが多く，薬物の保管形態を考える上で重要な史料である。２．薬物の支給に関わる文書や処方箋を記したと見られる木簡も出土し，薬物の配分・消費についても貴重な史料である。３．荷札は４点あり，そこに書かれた地名には「无耶志国」（武蔵国）と古様な表記を採ったり，「伊看我評」（丹波国何鹿郡）と評名を書いた木簡が見られるのに対して，郡名を記したものが出土していない。４．人名を記した木簡には，「阿曽美」・「伊美伎」など古い表記を採るものが大半である。以上の諸点から今回出土した木簡は，おおむね飛鳥浄御原令制下のもので，薬物の保管・配分に関わる官司が近辺に存在していた可能性が強いことを示唆している。（橋本義則）

・出雲臣首万□　出雲臣石寸　出雲臣知万呂　防風十斤十二〔両カ〕□　□　(272)・(25)・2 019

・石川阿曽弥　所賜　忽生地黄　(306)・(34)・4 019

・□□□□〔四カ〕両桃四両桂心三両白芷三両　□　車前子三両防風三両　172・25・4 011

・□両　栢実一両　右丸物

・伊看我評　90・24・4 032

・芎窮八斤　无耶志國薬桔梗冊斤　189・18・3 033

人参十斤　129・20・2 032

・黒石英十一　82・17・3 032

・斤